

## 第4回 物語文 気持ちと人物像(1)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学生の川本雄吾は、学校での生活がバカらしくなり、学校を休みがちとなった。学校に行かず公園のベンチに座っていた雄吾は、「源ジイ」と出会い廃品回収の仕事を手伝うようになった。ある日、源ジイが脳血栓で倒れて入院してしまい、以来、雄吾はその世話をしていた。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40

35

30

25

20

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

70

65

60

55

50

45

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

125

120

115

110

105

100

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 大儀(たいぎ)そう…大変(たいげん)そう。苦勞(くろう)する様子。  
インテリ…学問(がくもん)や知識(ちしき)がある人。知識(ちしき)人。

## 標準演習

問一 線(せん)㉑の言葉を、同じ意味(いみ)の別の表現(ひょうげん)にした場合、

□にあてはまる漢字(かんじ)一字(いちじ)を答え(こた)えなさい。

㉑ 血(ち)のつながりのない ↓ □の他人(たにん)

㉒ 口のなかでつぶやいた ↓ 独(ひとり)□した

㉓ 勝ち目(かちめ)がある ↓ 勝(かち)□がある

問二 線(せん)A「息(いき)をのんだ」B「気(き)おされて」の言葉(ことば)の意味(いみ)として最もふさわしいもの(もの)を後(あと)から一つずつ選(えら)び、記号(きごう)で答(こた)えなさい。

い。

A 息(いき)をのんだ

ア 深(ふか)いたため息(ためいき)をついた

イ 緊張(きんちょう)して息(いき)がで(で)きな(な)かった

135

130

- ウ 恐怖で息ができませんでした
- エ おどろいて息をとめた

B 気おされて

- ア 相手の言動におどろいて
- イ 相手の勢いにおされて
- ウ 相手の雰囲気感動して
- エ 相手の言葉におこって

問三 線①「真治の声は真剣だった」とありますが、このときの真治の気持ちとしてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

〔気持ち〕

ア 真治は雄吾に知り合いの手伝いをさせられないことを、残念に思っている。

イ 真治は雄吾が見ず知らずの他人の役に立つことを、この上もなく喜んでいる。

ウ 真治は雄吾が無関係の他人の世話をすることに対して、抵抗を感じている。

エ 真治は雄吾が学校以外でいきいきできる場所を見つけれられ、ほっとしている。

問四 線②「透明人間にでもなったような気がする」とありますが、このとき雄吾はどのような気持ちだったと考えられますか。「無視」という言葉を使って、三十字以内で説明しなさい。

〔気持ち〕


問五 線③「おれが勝ったら兄ちゃんはおれのいうことをきく」とありますが、「源ジイ」が勝った場合、具体的に「雄吾」に

どうしてほしいのですか。二十字以内で、「ほしい。」という形で答えなさい。

〔気持ち〕


問六 線④「賭けをやるまでもない」とありますが、これはどういうことですか。ふさわしいものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 賭けなどしなくても、父親が反対しているので、もうこれ以上源ジイの世話をすることはできそうもないということ。

イ 大人と何かを賭けて勝負するなどということは中学生がしていいことではないので、やりたくはないということ。

ウ 賭けなどしてもしなくても、雄吾はこれから源ジイの世話をしに来るつもりでいるので、むだであるということ。

エ 源ジイの今の身体の調子では賭けをするなどということはむだであり、自分が勝つに決まっているということ。

オ 決戦の金曜日までには源ジイの身体の調子も回復しているかもしれないので、負けるかもしれないということ。

問七 「源ジイ」が「雄吾」との賭けで実際に廊下を歩く様子が描かれてるのは、文章中のどこからどこまでですか。そのはじめと終わりの七字を書きぬいて答えなさい。

はじめ


終わり




